

若桜町未来ビジョン

WAKASA Mirai Vision

希望あるまちの将来像と
将来像を実現するための8つのプロジェクト

2020.03

*Ideas for the future: A new vision for Wakasa Town and
eight projects to make it a reality*

若桜町未来ビジョン

WAKASA Mirai Vision

希望あるまちの将来像と将来像を実現するための8つのプロジェクト

Ideas for the future: A new vision for Wakasa Town and eight projects to make it a reality

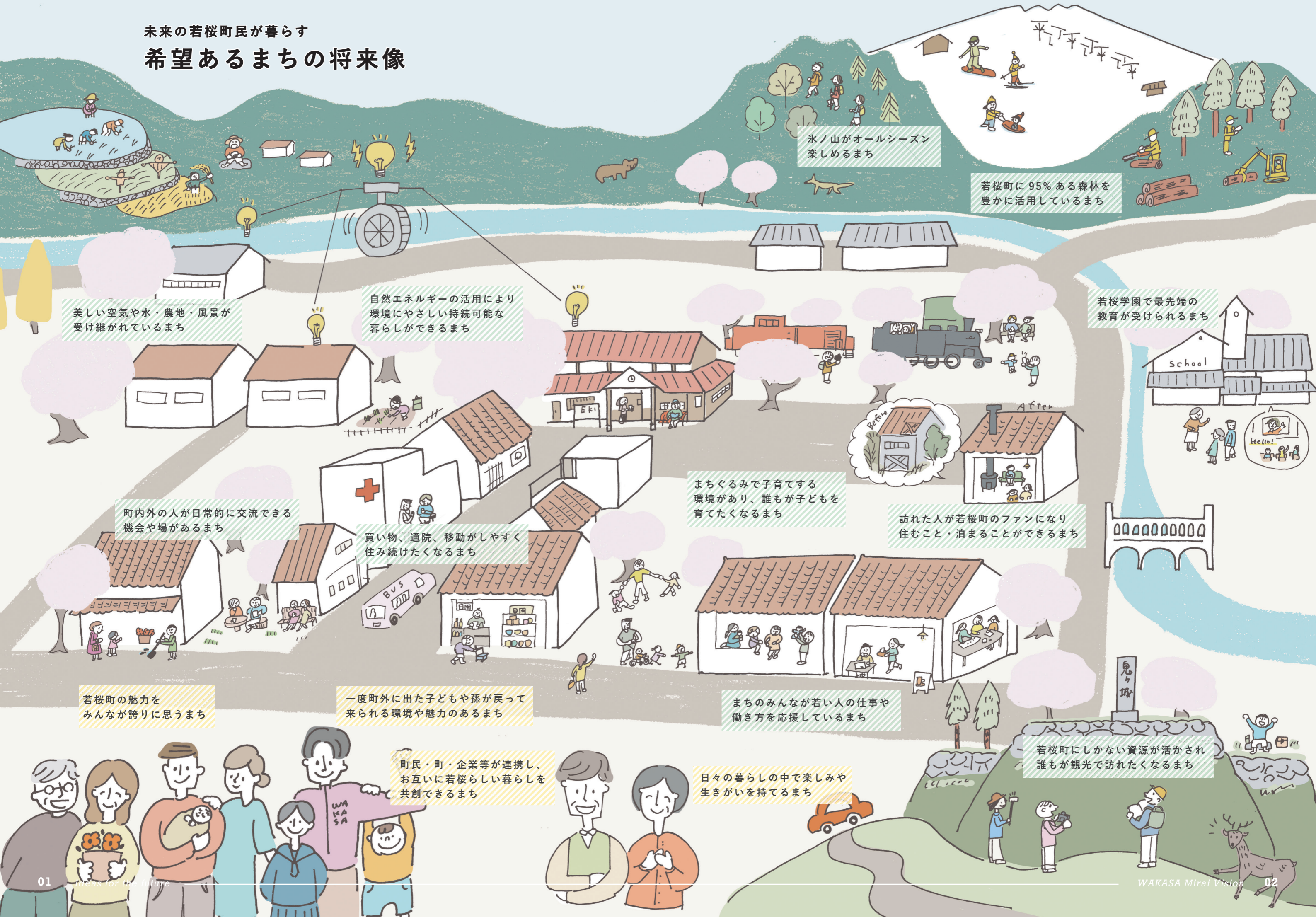
発行 | 若桜町役場

〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
<http://www.town.wakasa.tottori.jp/>

2020年
3月

未来の若桜町民が暮らす

希望あるまちの将来像



氷ノ山がオールシーズン楽しめるまち

若桜町に95%ある森林を豊かに活用しているまち

美しい空気や水・農地・風景が受け継がれているまち

自然エネルギーの活用により環境にやさしい持続可能な暮らしができるまち

若桜学園で最先端の教育が受けられるまち

町内外の人が日常的に交流できる機会や場があるまち

買い物、通院、移動がしやすく住み続けたいくなるまち

まちぐるみで子育てする環境があり、誰もが子どもを育てたいくなるまち

訪れた人が若桜町のファンになり住むこと・泊まることのできるまち

若桜町の魅力をみんなが誇りに思うまち

一度町外に出た子どもや孫が戻って来られる環境や魅力のあるまち

まちのみんなが若い人の仕事や働き方を応援しているまち

若桜町にしかない資源が活かされ誰もが観光で訪れたいくなるまち

町民・町・企業等が連携し、お互いに若桜らしい暮らしを共創できるまち

日々の暮らしの中で楽しみや生きがいを持てるまち

若桜町未来ビジョンとは？

What is WAKASA Mirai Vision ?

若桜町は人口減少に直面し、住み続けられる地域づくりをいかに進めるか、重要な時期を迎えています。

そこで、孫やひ孫の世代まで安心して住み続けられる持続可能なまちづくりに地域が一丸となって取り組むために、町民・町が「若桜町未来ビジョン懇話会（2019年度全8回）」における話し合いを通じて、若桜町未来ビジョンをまとめました。

この未来ビジョンで描かれたまちの将来像の実現に向かって、町民と町が協働して、2020年度から8つのプロジェクトを動かしていきます。

若桜町未来ビジョン 3つの大切な考え方

- ①地域ぐるみで一丸となって進めるプロジェクトを記載した、町民と町の協働のビジョン
- ②5年間で目に見える成果をあげ、小さな成功体験を共有し積み重ねることで、10年後の理想的な若桜町をつくる
- ③未来ビジョンを手にとった人が、一步を踏み出す勇気を持って、できることから始める

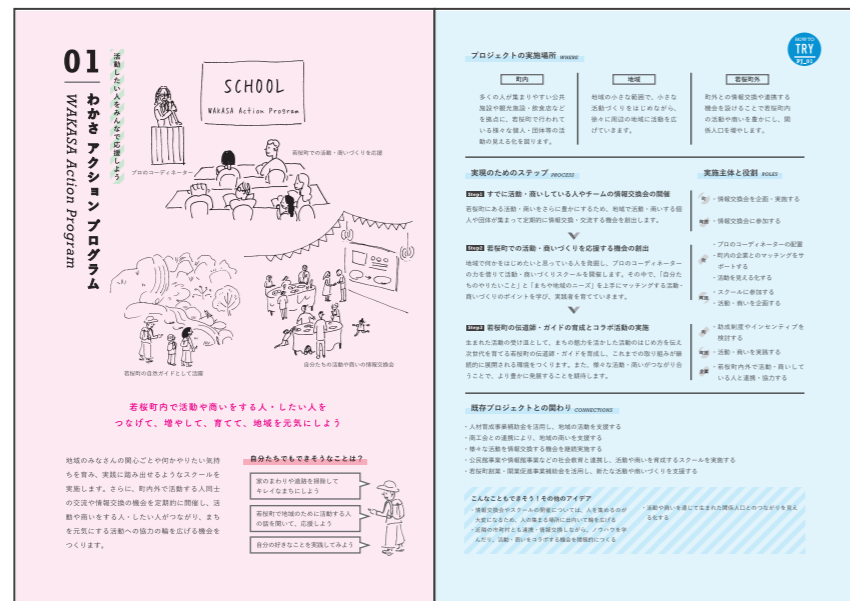
プロジェクトページの読み方ガイド

桜色のページ

プロジェクトの概要を知りたい方は桜色ページをお読みください。

空色のページ

プロジェクトの具体的な進め方を知りたい方は空色ページをお読みください。



将来像を実現するための8つのプロジェクト

Eight projects to make it a reality

Phase1 活動したい人をみんなで応援しよう

はじめの一步！ PROJECT **01** わかさアクションプログラム WAKASA Action Program **p.05**

Phase2 町民みんなが若桜を好きになろう

PROJECT **02** 地域内外に若桜町のファンを増やす「桜」の植樹プロジェクト **p.07**

PROJECT **03** 若桜町の特産品をもっと魅力的にするブランドづくりプロジェクト **p.09**

Phase3 若桜ならではの暮らしをつくろう

PROJECT **04** 子どもの教育環境を地域ぐるみで育む子どもサポートプロジェクト **p.11**

PROJECT **05** 若桜の森林からはじめる自然資源フル活用プロジェクト **p.13**

Phase4 いきいきと住み続けられる環境を整えよう

PROJECT **06** 地域の交流拠点づくりプロジェクト **p.15**

PROJECT **07** 空き家を活用した若桜らしい暮らしができる住宅づくりプロジェクト **p.17**

Phase5 関係人口や若桜町のファンを増やそう

PROJECT **08** 若桜町まちなかホテルプロジェクト **p.19**

地域ぐるみで進める未来ビジョンの実現に向けて

未来ビジョン策定のプロセス **p.22**

01 WAKASA Action Program

活動したい人をみんなまで応援しよう



若桜町の自然ガイドとして活躍

自分たちの活動や商いの情報交換会

若桜町内で活動や商いをする人・したい人を
つなげて、増やして、育てて、地域を元気にしよう

地域のみなさんの関心ごとや何かやりたい気持ちを育み、実践に踏み出せるようなスクールを実施します。さらに、町内外で活動する人同士の交流や情報交換の機会を定期的で開催し、活動や商いをする人・したい人がつながり、まちを元気にする活動への協力の輪を広げる機会をつくれます。

自分たちでもできそうなことは？

- 家のまわりや道路を掃除してキレイなまちにしよう
- 若桜町で地域のために活動する人の話を聞いて、応援しよう
- 自分の好きなことを実践してみよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

町内

多くの人が集まりやすい公共施設や観光施設・飲食店などを拠点に、若桜町で行われている様々な個人・団体等の活動の見える化を図ります。

地域

地域の小さな範囲で、小さな活動づくりをはじめながら、徐々に周辺の地域に活動を広げていきます。

町外

町外との情報交換や連携する機会を設けることで若桜町内の活動や商いを豊かにし、関係人口を増やします。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 すでに活動・商いしている人やチームの情報交換会の開催

若桜町にある活動・商いをさらに豊かにするため、地域で活動・商いする個人や団体が集まって定期的に情報交換・交流する機会を創出します。

Step2 若桜町での活動・商いづくりを応援する機会の創出

地域で何かをはじめたいと思っている人を発掘し、プロのコーディネーターの力を借りて活動・商いづくりスクールを開催します。その中で、「自分たちのやりたいこと」と「まちや地域のニーズ」を上手にマッチングする活動・商いづくりのポイントを学び、実践者を育てていきます。

Step3 若桜町の伝道師・ガイドの育成とコラボ活動の実施

生まれた活動の受け皿として、まちの魅力を活かした活動のはじめ方を伝え次世代を育てる若桜町の伝道師・ガイドを育成し、これまでの取り組みが継続的に展開される環境をつくれます。また、様々な活動・商いがつながり合うことで、より豊かに発展することを期待します。

実施主体と役割 ROLES

- 町
 - 情報交換会を企画・実施する
- 町民
 - 情報交換会に参加する
- 町
 - プロのコーディネーターの配置
 - 町内の企業とのマッチングをサポートする
 - 活動を見える化する
- 町民
 - スクールに参加する
 - 活動・商いを企画する
- 町
 - 助成制度やインセンティブを検討する
- 町民
 - 活動・商いを実践する
- 企業
 - 若桜町内外で活動・商いしている人と連携・協力する

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

- 人材育成事業補助金を活用し、地域の活動を支援する
- 商工会との連携により、地域の商いを支援する
- 様々な活動を情報交換する機会を継続実施する
- 公民館事業や情報館事業などの社会教育と連携し、活動や商いを育成するスクールを実施する
- 若桜町創業・開業促進事業補助金を活用し、新たな活動や商いづくりを支援する

こんなこともできそう！その他のアイデア

- 情報交換会やスクールの開催については、人を集めるのが大変になるため、人の集まる場所に向いて輪を広げる
- 近隣の市町村とも連携・情報交換しながら、ノウハウを学んだり、活動・商いをコラボする機会を積極的につくる
- 活動や商いを通じて生まれた関係人口とのつながりを見える化する

町民みんなが若桜を好きになろう

02 地域内外に若桜町のファンを増やす「桜」の植樹プロジェクト



若桜町で暮らすみんなが

「若桜町に住んでいることが誇り」といえるまちを目指そう

若桜町では、自分たちのまちの魅力や豊かさに気づき、誇りを持てるようになる機会が少ない現状があります。若桜町が観光客など外からの関心を集めていることを知り、地名に「桜」が入っていることを強みに、子どもからお年寄りまで、桜を活用したまちへの愛着づくりを進めます。

自分たちでもできそうなことは？

自宅の庭や身近な場所で、桜を植えたい場所を探してみよう

桜と一緒に植樹してみよう

若桜町の「桜」を町外の人たちにPRしよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

町内

駅を中心とした目立つ場所に桜を植樹し、桜視率を高めるほか、桜の近くにベンチを設置するなど、桜を見る環境を整えます。

地域

観光資源の近くに桜を植樹し、春は満開の桜とともに観光を楽しんでもらえるように配慮します。

町外

観光客の動向や声を見える化して地域の方々に伝えるとともに、「若桜名物の桜」を町外の方に発信していきます。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 桜プロジェクトチームの設立

桜の植樹を通じて若桜町に誇りを持つという趣旨に賛同するメンバーを募集し、チームを設立します。

Step2 桜の植樹場所の検討と調整・植樹

若桜町の観光動向など情報を集約し、共有・発信します。まち歩きをしながら、すでに桜がある場所を把握し、新たに桜スポットや花見スポットになりそうな場所を探します。また、土地の所有者の方とも相談しながら、戦略的に桜を植樹する場所を決定し、植樹します。

Step3 子どもたちと一緒に桜の植樹が行える機会づくり

卒園・卒業の記念植樹など、子どもたちが「自分たちの桜」として愛着を持ってもらえる機会がつけられるような連携体制を検討します。

例 若桜学園やこども園と連携した記念植樹

Step4 桜の材を活用した特産品づくりや情報発信

桜の材を活用したチップやコースター、箸などをつくって販売したり、植樹した方や観光客へプレゼントとするなど、桜を活用したブランディングを進めます。

実施主体と役割 ROLES

- 町 桜プロジェクトチームを設立する
- 町民 趣旨に賛同する仲間を募ってチームに参加する

- 町 桜分布マップを作成する
- 町民 桜の苗木を調達、提供する
- 町民 既存の桜の場所を知る
- 町民 植樹する場所を検討・調整する

- 町 学園やこども園と調整する
- 町民 「自分たちの桜」を植樹する
- 企業 植樹活動に協賛してもらう
- 町民 敷地内に桜を植えてもらう

- 町 桜を活用した情報発信を進める
- 町民 桜を活用した特産品をつくる

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

- 関西鳥取若桜会の桜植樹活動と連携する
- 老人クラブ連合会が実施している「花づくり生産活動」との連携を図る

こんなこともできそう！その他のアイデア

- 地域の原野や耕作放棄地などに桜を植樹し、各集落で競い合うように桜を増やす
- まちなかに開花時期の違う桜を植え、桜とともにまちを歩いて楽しんでもらえるようにする
- 既に桜が植えてある場所は、ベンチの設置やライトアップを検討し、桜を見ながら休憩できるスポットに成長させる
- ふるさと納税を活用する

03

若桜町の特産品をもっと魅力的にする ブランドづくりプロジェクト

町民みんなが若桜を好きになろう



若桜町のブランドづくり戦略の意見交換と情報交換

紙媒体やウェブ媒体で効果的な情報発信

売り方やパッケージもデザイン

「若桜町ブランド」の特産品をもっといろんな方に
知ってもらい、買ってもらおう

若桜町には、誇るべき品質の特産品が数多くありますが、今ひとつブランド力に欠け、町内外に浸透していません。町内外の方が若桜の特産品に親しみを持つことができ、手に取った人に「若桜町」の魅力と名前が伝わるよう、様々な販促ツールを作成し、「若桜」「鳥取・若桜」のブランドをもっと知ってもらう工夫をします。

自分たちでもできそうなことは？

- 特産品をつくらっている方々の話を聞いてみよう
- 若桜町の特産品を消費しよう
- 若桜町の特産品を様々な人にオススメしよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

町内	地域	町外
町内外の人材や資源を集め、ブランディング戦略を検討するための情報を集約し、「若桜町ブランド」を見える化し、発信します。	特産品の原材料となる地域資源の収集、農産物などの栽培、加工を行います。	若桜町の特産品を、多様な販促ツールを用いて町外に積極的にPRし、実際に手に取ってもらえる環境をつくり、「若桜町ブランド」を確立します。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 若桜町のブランドづくり戦略の検討
若桜町の特産品をつくらっている人たちや、若桜町に関わりのあるデザイナー・ライターなどの専門家を中心に、若桜町のブランドづくり戦略を検討。特産品をつくるうえでこだわっていることや、町外に発信するうえで工夫していることなどを情報交換しながら、若桜町ブランドづくり戦略を検討します。

例 紙袋やパッケージなどのデザインリニューアル、若桜ブランドロゴの作成、販路拡大のための情報発信ツールの作成、インターネットを活用したネットショップの立ち上げ など

Step2 ブランディング・販促ツールのデザイン・作成・運用
専門家を交えた話し合いの結果を受けて、キャッチコピーやデザイン等を作成します。生産者や販売店にアプローチして、若桜町共通のブランド戦略として実装し、町外に展開します。

Step3 町外の利用者・体験者の声を活かした見直し
実装したブランドづくり戦略を体験した町外の方の声や感想を聞きながら、特産品自体の品質やブランドづくり戦略を見直し、さらに効果的な展開ができるよう、改善を重ねます。

実施主体と役割 ROLES

- 町**
 - 町内の特産品をつくらっている、販売している方々との調整する
 - ブランドづくり戦略を話し合う場を設ける
- 町民**
 - 若桜町の特産品となりそうなものを一緒に探す
 - デザイナーやライターを探す
 - ブランドづくりの意見交換に参加してアイデアを出す
- 町民**
 - 専門家と一緒に若桜らしさを踏まえたツールを作成する
- 企業**
 - 販促ツールを積極的に導入する
- 町民**
 - 町外の方の意見を聞きながら、見直しや改善に努める

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

- 商工会と連携し、新商品開発などを支援する
- 特産品振興会と連携する

こんなこともできそう！その他のアイデア

- 高知県が「県はひとつの大家族」というコンセプトで「高知家」というキャッチコピーをつかったように、若桜町らしさが伝わるコピーを考える
- 若桜町ブランドのロゴは桜の形をモチーフにしたい
- 若桜町のことを「もっと知りたい！」と思ってもらえるようなデザインの販促ツールをつくる
- 紙媒体に QR コードをつけることで、ウェブ媒体と連動した戦略を検討したい

若桜ならではの暮らしをつくろう

04 子どもの教育環境を地域ぐるみで育む 子どもサポートプロジェクト



クラブ活動を地域の人がサポート

若桜学園の教育プログラムについてみんなで考える

給食で若桜メシを提供

若桜学園

グローバル教育の充実

最先端のICT教育の充実

町民・町・若桜学園が一体となって地域ぐるみで子どもたちの教育環境を育み、魅力を発信しよう

町民や町、教育機関等が一体となって、子どもたちの教育環境を地域ぐるみで支えます。また、IT活用や語学教育の充実により若桜にしながらグローバルで最先端の教育が受けられる環境を整えます。この取り組みを通じて、若桜で子育てをしたい!と思ってもらえるよう、子育て・教育情報を積極的に外部へ発信します。

自分たちでもできそうなことは?

子どもの見守りをしよう

若桜での子育てや若桜学園の魅力をいろんな人に紹介しよう

子どもたちに部活動の指導や部活動ができる場所を提供しよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

町内

若桜学園を拠点に教育環境をさらに充実させるアイデアを検討し、最先端の教育プログラムの開発を進めます。

地域

若桜町の自然の魅力を学ぶ環境教育プログラムや若桜ならではの体験教育の受け皿となります。

町外

移住定住促進と連動し、若桜の教育環境の魅力も一緒に発信することで、全国からの子育て世代の移住増加を図ります。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 子どもたちを地域で応援するための意見交換の機会づくり

町民と教育委員会事務局、移住定住を担当するふるさと創生課、若桜学園、学識者等で子どもたちの教育を考える機会を設けて、若桜の教育に関する既存計画の進捗や子どもたちの教育環境の現況を把握し、それをより良くするためのアイデアを検討します。また、子どもシンポジウムの場なども活用し、「こんなことをやってみたい!」という子どもからの自発的なアイデアも聴取します。

例 グローバル教育としてNYへ修学旅行 プログラミング教育 など

Step2 教育環境をより良くするアイデアの実施に向けた検討

みんなで出し合ったアイデアを取りまとめ、子どもたちのために、すぐにもはじめたほうが良いこと、すぐにでもはじめられそうなおことから、実際に動かすため、実施体制やスケジュール等を具体的に検討します。

Step3 子育て世代に向けた情報発信

みんなで考えたアイデアを実施した後、子どもたちやその家族から日頃の教育環境やアイデアへの感想を伺い、取りまとめます。その結果を子育て世代に届きやすい媒体を活用しながら情報発信し、若桜の教育環境に関心を持ってもらうことで、移住定住のきっかけを提供します。

実施主体と役割 ROLES

- 町民
 - 意見交換の機会をつくる
 - 意見交換の機会に参加する
 - 意見交換の機会に参加する
- 若桜学園
 - 若桜学園の現況を情報提供する
- 町
 - アイデアを元に具体的に検討する
 - 実施に向けて、お手伝いしてくれそうな人を探す
- 町民
 - 移住定住促進と一緒に情報発信していく
 - 発信の媒体を製作する
- 町民
 - 若桜の教育環境の魅力を口コミで広める

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

子どもシンポジウムを活用し、子どもたちからアイデアを出してもらう

こんなこともできそう! その他のアイデア

- 子どもたちが勉強したり、遊んだりできる放課後の居場所づくりを考える
- 子どもの健康増進つながら取り組みも検討する

- 少人数教育、安い教育費、若桜メシといった既存の若桜学園の強みや特徴的な取り組みの効果を検証するとともに、成果を情報発信する

若桜ならではの暮らしをつくろう

05 若桜の森林からはじめる 自然資源フル活用プロジェクト



森林を守り育て、楽しむ多様な活動を通して、
自然環境を活かした若桜らしい暮らしのにぎわいを生み出そう

自然との共生を若桜らしいにぎわいと捉えて、まずは約 95% ある森林の活用からはじめ、川や農地など多様な自然環境のフル活用へと展開します。子どもから大人まで楽しめる活動や、自然を守り育てる保全活動や自然教育プログラムを実施するとともに、それらの森林での活動の担い手となる人材を発掘し、育成します。

自分たちでもできそうなことは？

子どもたちの水遊びを見守ろう

森林や自然を活用した事例を紹介し合う勉強会を開催しよう

休日に農作業を手伝ったり、森林に出かけてみよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

町内

若桜の森林を活かした、木材加工品を作ったり、建物に地場材を積極的に活用するなど、自然の恵みを日常生活の中でフル活用します。

地域

氷ノ山などすでに魅力のある豊かな自然を継承していくとともに、森林環境の保全と活用を進めます。

町外

観光で訪れた人が若桜の森林の魅力を経験し、若桜の自然に関心を持ってもらうことで、森林を活用したい人を増やします。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 森林で活動したい人、活動を応援したい人の募集

森林でガイドをしたい人、地場材でクラフトをやりたい人など、森林を守り・育て、活用してくれる人材を町内外から募集します。

例 森林の中でドローン撮影をしたい、森林の中にドッグランをつくりたい、ジップラインをつくりたい、カヌーなど水を活用した活動したい など

Step2 森林が活用できる活動拠点の検討

町民と町が協力し、活動拠点になりそうな場所を調査し、実施できそうな場所の所有者と協議をしながら、活動拠点を決めます。

Step3 活用アイデアを検討し、実施に向けた研修会の開催

森林を活用するアイデアの実施に向けて、森林の専門家や森林に関わる仕事や活動をしている方をお呼びして研修会を開き、アドバイスをもらいます。

Step4 取り組み成果を発信し、さらに協力者を増やす仕組みづくり

実際に森林活用を行った成果と若桜の森林の魅力をまとめ、町内外に発信することで、協力者を増やす仕組みを検討します。

実施主体と役割 ROLES

町民

- ・森林でやりたいことを考えて、応募する
- ・協力してくれそうな人に声をかける

町

- ・森林を調査する
- ・所有者と協議する

町民

- ・町と一緒に森林を調査する

町

- ・研修会を支援する

専門家

- ・専門的な立場から、若桜の森林を調査する

町

- ・活用の記録を作成・発信する

町民

- ・若桜の魅力を整理する

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

- ・町民参加で策定された「森林づくりビジョン」による取り組みと効果的に連携する
- ・人材育成、村おこし事業育成助成金を活用し、活動を支援する

こんなこともできそう！その他のアイデア

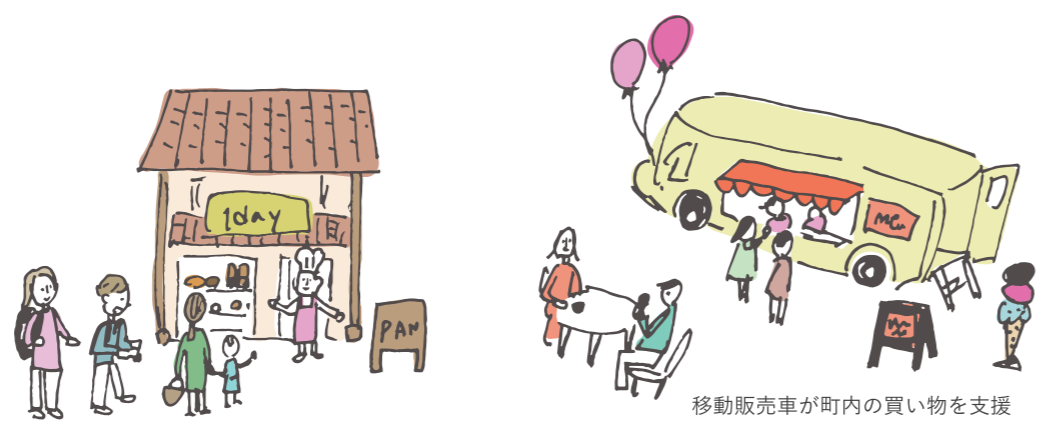
- ・尾根伝いに歩けるルートが載った若桜登山マップを活用したツアーを企画・実践する
- ・子どもと一緒に楽しめる森林探検ツアーを企画・実践する

- ・水力発電や木質バイオマスなど、自然を活用した再生可能エネルギーを積極的に利用し、経済の地域循環を生み出す
- ・森林が人々の癒し・憩いの空間となるような村づくりプロジェクトを行う

06

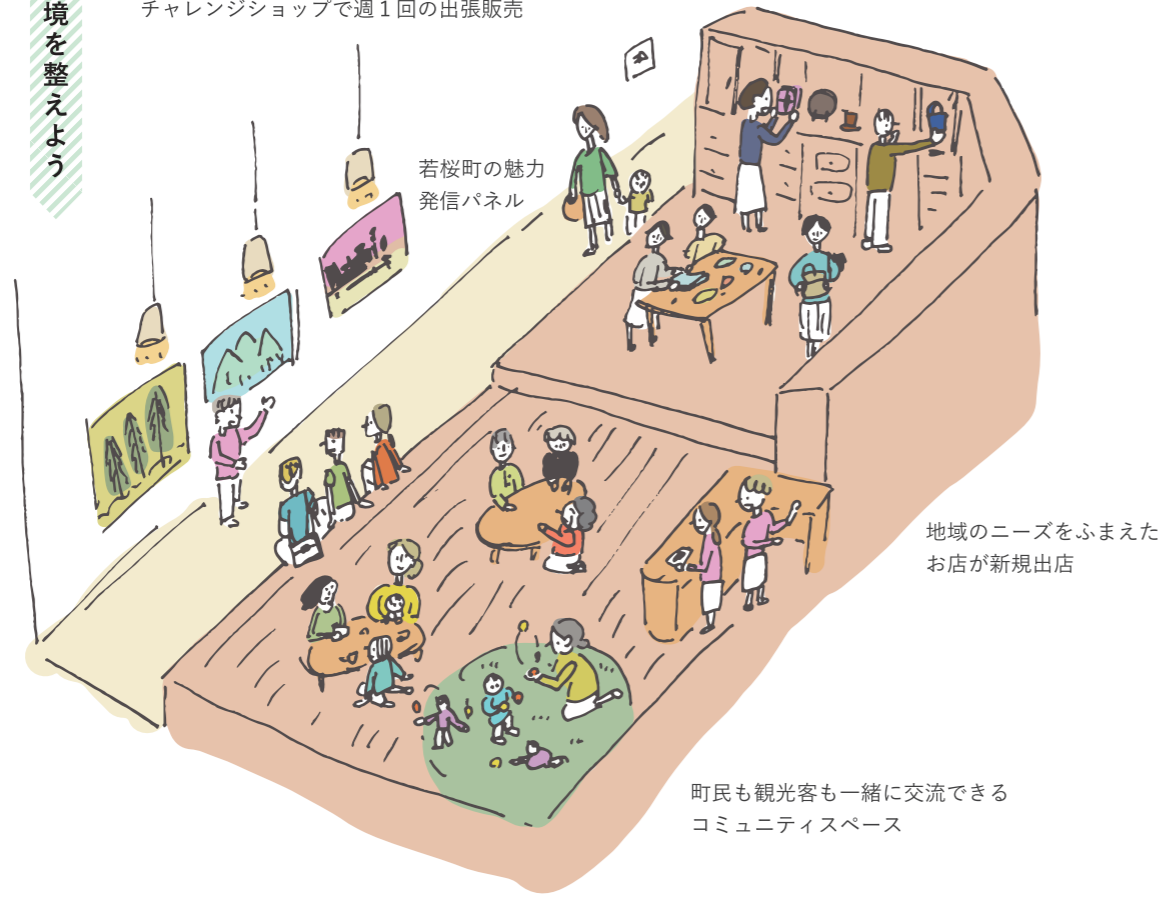
地域の交流拠点づくりプロジェクト

いきいきと住み続けられる環境を整えよう



移動販売車が町内の買い物を支援

チャレンジショップで週1回の出張販売



そこに行けば、だれかに出会えて

地域コミュニティが育まれる交流拠点をつくり、育てよう

様々な人に出会えたり、交流できる場がないという声が聞かれます。また、お店が欲しいという声も多いですが、新規出店が少ない現状があります。そこで、子どもも大人も、町民も観光客も楽しく交流できて、便利に買い物もできて、みんなが集まりたいような地域の拠点となるような場所をつくりたい。

自分たちでもできそうなことは？

- どんな交流拠点があると嬉しいかアイデアを出そう
- 出店希望者を探して声をかけよう
- 交流拠点の運営やイベントを盛り上げる手伝いをしよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

町内

町民等が集まりやすく、さらなる利用促進が期待される既存の施設や空き家・空き店舗等を交流拠点として活用します。

地域

農産物や畜産物、森林の恵みを活用して制作されたグッズなどを交流拠点で紹介したり、販売できるようにします。

町外

観光客など町外から訪れた人が、町民と交流したり、若桜町の暮らしや文化を知れるような交流拠点とします。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 若桜町にふさわしい交流拠点のコンセプトづくり

どんな人に集まって欲しいか、どんなことができるとよいか、どんなお店があるとよいかなど、町民にとって欲しいと思える交流拠点のコンセプトをまとめます。

Step2 交流拠点として活用したい施設探し・出店候補者探し

コンセプトを実現する上で使いやすい施設、出店を検討してくれる方を探して、協力を打診します。

Step3 交流拠点のお試し運営と改善点の検討

町民、出店予定者、町が協力して交流拠点の運営計画案を検討します。計画案が町民や観光客ニーズに合っているか、効果的な運営ができるかを検証するために、一定期間お試しで運営し、その成果を踏まえ、計画案を改善します。

Step4 必要な改修と本格運用の開始

最終的な運営計画をまとめ、運営に必要な施設の改修を行い、本格運用を開始します。

実施主体と役割 ROLES

- 町**
 - 交流拠点づくりに必要な検討事項を整理する
 - 候補施設をリストアップする
 - 出店候補者へ依頼する
 - 運営計画案の作成を支援する
 - お話し運営の実施を広報する
 - 改修を実施または支援する
 - 運営の継続を支援する
- 町民**
 - 交流拠点に欲しい具体的な機能のアイデアを出す
 - 施設探し・出店候補者探しに協力する
 - お話し運営を手伝う
 - 交流拠点を地域ぐるみで利用して、応援する
- 出店者**
 - お試しで出店し、改善点を検証する
 - 利用者ニーズに合わせた運営を継続する

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

- 商工会のチャレンジショップ事業を活用して、まずは若桜町に出店する可能性を考えてくれる人を増やす
- 商工会と連携し、既存商店の事業拡大や新規出店を支援する
- 若桜町創業・開業促進事業を活用して、新規出店者を支援する

こんなこともできそう！その他のアイデア

- 最初は、移動販売車やチャレンジショップを活用した出張出店（月1回、週1回）で地域ニーズを掴んでもらう
- 地域内の経済循環を促進するために、商品券の活用、地域通貨の発行等の取り組みと連携する
- 出店者の事業継続を地域ぐるみで応援できるような仕組みを考える
- 既存施設の活用成果を生かして、公民館など他の既存施設の有効利用へ展開させる

いきいきと住み続けられる環境を整えよう

07 空き家を活用した若桜らしい暮らしができる住宅づくりプロジェクト



若桜町へ移住したい人、住み続けたい人のために、
若桜らしい暮らしができる住宅を増やそう

若桜町では移住・定住施策に力を入れています
が、その受け皿となる住宅が少ない現状があり
ます。また、空き家は老朽化が進行すると住宅
として活用することが難しくなります。そこで、
空き家の所有者、地域住民、町が協力して、空
き家が住宅として活用される仕組みづくりを取
り組みます。

自分たちでもできそうなことは？

空き家の活用に協力してくれる
所有者をみんなで探そう

若桜町に住みたい人を紹介しよう

町内で空き家を活用している
事例を見に行ってみよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

宿内

歩いて楽しい歴史を感じる町
並みがあり、歩いて行ける範
囲に公共施設やお店がある魅
力的な宿内の暮らしにふさわ
しい空き家の活用を進めます。

宿外

森林・川・棚田・広い空など
四季折々の美しい風景に囲ま
れた魅力的な宿外の暮らしに
ふさわしい空き家の活用を進
めます。

町外

魅力的な暮らしのシーン、住
民や移住者の声など、若桜町
に住みたくなる情報を町外へ
発信し、若桜町に移住したい
人を増やします。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 空き家の活用に協力してくれる「モデル地域」の決定と「改修モデルプラン」の作成

空き家の改修モデルプランの実現に協力してくれる地域、改修に協力してく
れる空き家の所有者を募集し、「モデル地域」を決定します。若桜らしい暮
らしを実現するために、空き家をこんなふうに変えたい！という理想的な
改修モデルプランを地域住民、専門家、町と協力して作成します。

実施主体と役割 ROLES

- 町
 - 対象空き家候補を探す
 - 空き家所有者の協力を得る
 - モデル地域の協力を得る
- 町民
 - プロジェクトの趣旨をわかりや
すく伝える
 - 若桜らしい暮らしにふさわし
い改修アイデアを出す
- 専門家
 - プランを提案する

Step2 空き家所有者・地域住民・移住予定者の参加による改修

改修モデルプランを元に、関係者がみんなで意見交換しながら、空き家の改
修を行います。

- 町
 - 制度を活用して支援する
- 町民
 - 所有者・地域住民・移住予定
者の交流機会を設ける
- 専門家
 - 設計・改修工事をする

Step3 空き家を円滑に活用できる体制と支援制度の拡充

空き家発掘から改修までの一連の取り組みを総合的にコーディネートする民
間組織を立ち上げるとともに、効果的な支援制度を整えます。

- 町
 - 支援制度を拡充する
- 町民
 - モデルプロジェクトの成果を
町内外の人に伝える
- 専門家
 - コーディネート組織をつくる

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

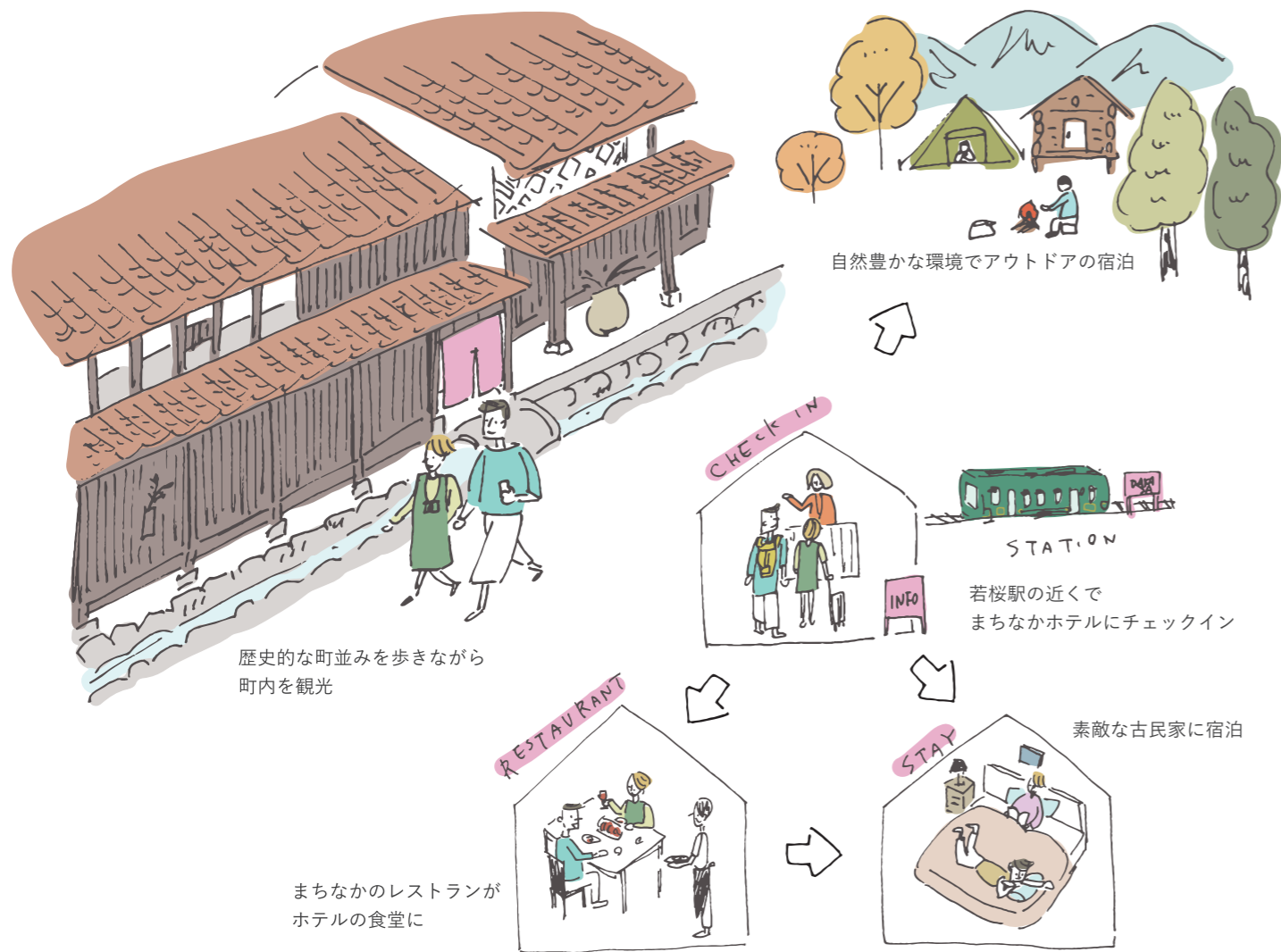
- 空き家バンク制度を通じて、活用できる空き家の掘り起こしを進める
- 空き家再生事業補助金、移住者住宅新築等事業補助金を活用しつつ、モデルプロジェクトの成果を活かして支援の内
容を充実させる
- 都市部での移住相談会等を通じて、移住を考えている人に若桜らしい暮らしの魅力を発信する

こんなこともできそう！その他のアイデア

- 若桜らしい暮らし（町並みとの関係、自然との関係、住宅
特性の活用等）とは何かをみんなでしっかり考える
- 若桜町の空き家の建築特性を踏まえ、デザイン手法、若桜
材の活用、低コストの改修手法など若桜モデルを開発する
- 活用対象とする空き家の選定基準をつくる
- 空き家改修における資金調達手法の選択肢を増やす
- 潜在的な移住関心層に効果的に届く情報発信の方法を考え
る（家賃等の情報公開は、今後の重要な検討事項）

関係人口や若桜町のファンを増やそう

08 若桜町まちなかホテルプロジェクト



若桜町の暮らしと魅力を体験してもらうために、
宿泊環境を整え、町外のファンを増やそう

若桜町には多くの地域資源がありますが、通過型の観光だけでは、その魅力を町外の人に十分に感じていただけません。そこで、若桜町に泊まり、暮らし・文化・自然・生業の魅力をじっくり体験できるように、まちなか全体をホテルと見立てて、宿泊機能（泊まる・食事する等）をまちなかに増やしていきます。

自分たちでもできそうなことは？

町民参加型のホテルブランドづくりに参加してアイデアを出そう

若桜町の宿泊施設を町外に伝えよう

宿泊施設を運営してみたい人を紹介しよう



プロジェクトの実施場所 WHERE

町内

駅を中心とした施設にまちなかホテルのフロント機能を設けるほか、徒歩圏内に歴史を感じる町家の宿泊施設や飲食店を充実させます。

地域

四季折々の美しい風景や自然に囲まれた暮らしが体験できる宿泊施設やアウトドア体験等の受け入れ環境を充実させます。

町外

若桜町の魅力的な暮らしを体験できる宿泊施設として町外に積極的に情報発信し、宿泊客の誘致を図ります。

実現のためのステップ PROCESS

Step1 町民参加型のホテルブランドづくり

町民参加型の仕組みをつくり、ブランドやコンセプトづくり、内装のデザイン、情報発信の方法などを一緒に考え、地域愛の醸成や地域へのプライドづくりにもつなげます。さらに、ホテル内で使用する部屋着や食器などを地域の資源からまかなうなど、積極的に地域と連携するよう工夫します。

Step2 まちなか宿泊施設の整備

空き家や古民家などから、宿泊施設として整備できそうな建物を発掘し、優先順位を決めながら宿泊できる施設に改修します。また、観光協会等と連携しながら、まちなかホテルプロジェクトを運営し、フロント機能や清掃の導入など、細かな機能について検討します。

Step3 暮らしの体験、交流機能の拡充と移住への展開

多様な選択肢のある宿泊施設や食事処、体験施設・プログラムなど、まちなかホテル機能の拡充を図ります。さらに、町民と宿泊客の交流の機会づくりも積極的に行い、「おもてなし」を向上させるとともに、移住の際に若桜町を選んでもらえるような交流体験を促します。

実施主体と役割 ROLES

- 町** ・町民参加型の仕組みづくり
- 町民** ・ホテルブランドづくりへの参加
- 町民** ・自分で手伝えるアイデアや提供できる資源を持ち寄る
- 町** ・空き家や古民家の発掘
- 町** ・空き家改修による宿泊施設の整備または補助
- 町** ・フロント機能の整備・調整
- 企業** ・宿泊事業に参入し、若桜町の魅力を町外に発信する
- 町** ・移住希望者へのフォローアップ
- 町民** ・宿泊者へのおもてなしと若桜町の魅力や暮らしを紹介する
- 企業** ・暮らしの体験、交流機能の拡充

既存プロジェクトとの関わり CONNECTIONS

- ・若桜町創業・開業促進補助金を活用し、支援する
- ・若桜町空き家流通促進補助事業を活用し、支援する

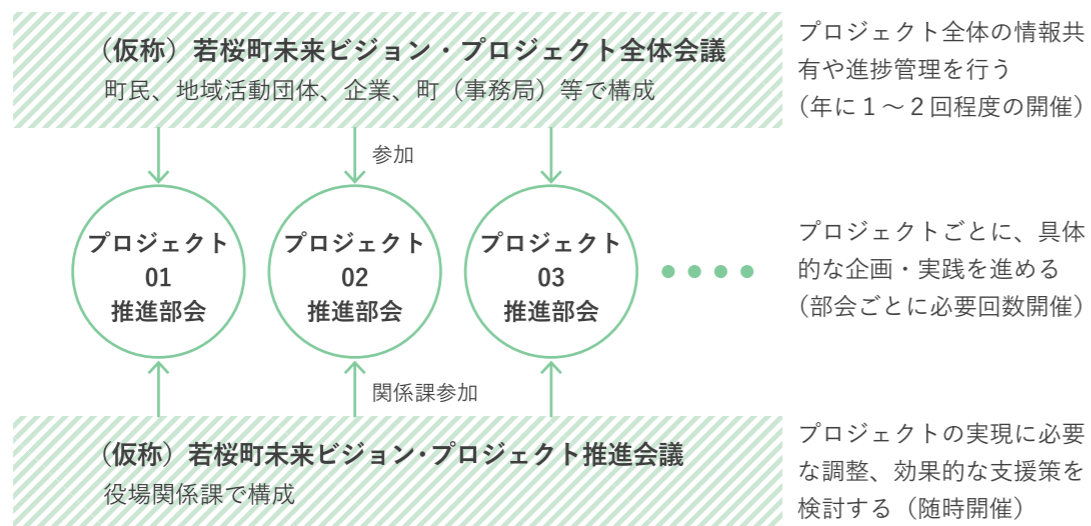
こんなこともできそう！その他のアイデア

- ・歴史的な町並みや古民家などを民泊やホームステイなどの宿泊形態で活用する
- ・中ノ島公園や氷ノ山、旧池田小学校など自然豊かな環境でキャンプや宿泊体験ができるように整備する
- ・農業や木工、まんじゅうやソーセージづくり体験など、若桜町の生業を体験できるようなプログラムをつくる
- ・ジビエや豚肉、鶏肉などが食べられるように、食事処と提携したり、宿泊場所で自炊できるパッケージを売る



地域ぐるみで進める 未来ビジョンの実現に向けて

若桜町未来ビジョンで描かれた「希望あるまちの将来像」を実現するために、プロジェクトの推進に向けて、地域ぐるみでできることから始めます。



未来ビジョンの作成を検討してきた「若桜町未来ビジョン懇話会」を母体として、8つのプロジェクト全体の情報共有や進捗管理を行う「(仮称) 若桜町未来ビジョン・プロジェクト全体会議」を設けます。また、町民、町、企業など多様な関係者が協働して8つのプロジェクトを推進するために、全体会議の作業部会として「(仮称) プロジェクト推進部会」を設けます。町は、8つのプロジェクトの実現に必要な調整、効果的な支援を行うために、複数の関係課で構成される「(仮称) 若桜町未来ビジョン・プロジェクト推進会議」を設け、各課が分野横断的に連携して取り組むことができる体制整備を行います。

未来ビジョン策定のプロセス

若桜町未来ビジョンは、公募で集まった若桜町のまちづくりに関心を持つ地域の方々と全8回の懇話会で意見交換を重ねて策定しました。



想いやこだわりを共有する

未来ビジョン策定にあたって、普段感じている若桜町への想いやこだわりをみんなで共有しながら意見交換しました。



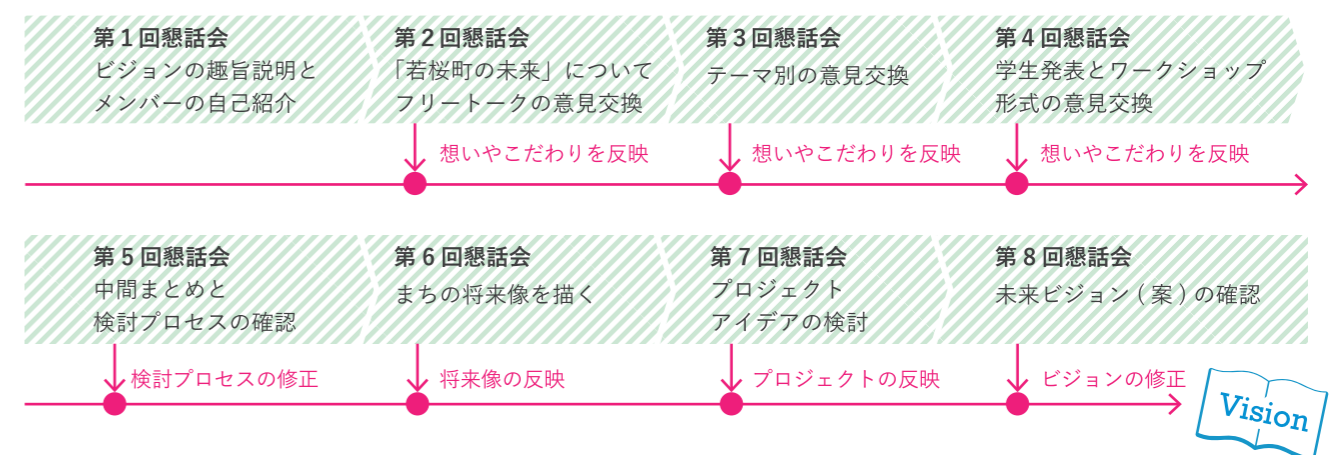
まちの将来像を描く

希望を持てる若桜町の未来を考えるために、バックカasting（未来思考）で目指すべきまちの将来像を描きました。



プロジェクトを生み出す

まちの将来像を実現するためのアイデアを出し合い、町・町民・企業・町外の人等、誰が何をやるか意識しながらプロジェクトをつくりました。



若桜町未来ビジョン 2020年3月

Ideas for the future: A new vision for Wakasa Town and eight projects to make it a reality

発行 | 若桜町役場
〒680-0792

鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5

TEL : 0858-82-2231 FAX : 0858-82-0134

<http://www.town.wakasa.tottori.jp/>

編集協力 | 石塚計画デザイン事務所
<http://www.community-design.jp/>

イラスト | ひやま ちさと

<https://hiyamachisato.tumblr.com/>